

## 三宅町都市計画マスタープラン・立地適正化計画 町民意向アンケート調査の結果（確定値）について

### 1. 調査概要

#### (1) 目的

三宅町都市計画マスタープランの改定及び立地適正化計画の策定に際し、今後の三宅町のまちづくりに関する町民意向を把握し、計画策定の基礎資料とするため、アンケート調査を実施しました。

#### (2) 調査設計

同一内容の調査票にて、以下2つの調査を実施しました。

##### 調査①

調査地域	三宅町全域
調査対象	町民 2,000 名（無作為にて抽出）
調査期間	令和 7 年 9 月 5 日(金)～9 月 19 日(金)
方法	郵送にて配布、郵送及び WEB にて回収

##### 調査②

調査地域	三宅町全域
調査対象	18 歳以上の町民
調査期間	令和 7 年 9 月 5 日(金)～9 月 19 日(金)
方法	町ホームページにて公開、WEB フォームより回答

#### (3) 回収結果

本調査では、合計 912 件の回答を回収しました。

回収結果の内訳は以下のとおりです。

	配布数 (A)	有効回答数 (B)	回収率 (B/A)
調査①	2,000	851 (うち、郵送 671 件、 WEB 180 件)	42.55%
調査②	—	61	—
合計	—	912	—

## 2. 結果の概要 ※調査①と②を合算しまとめて集計

### (1) 回答者の属性

- ・ 年齢は、70歳以上が3割以上と最も多く、高齢層から回答が中心となった。
- ・ 家族構成は、「2世代（親・子など）」が5割以上で最も多かった。
- ・ 職業は、「無職・家事専業」が約4割で最多、次いで会社員・公務員だった。
- ・ 居住地区は、石見が約3割で最も多く、次いで伴堂だった。
- ・ 居住年数は、「20年以上」が7割以上と定住層が多数を占めた。

### (2) 日常の行動について

- ・ 通勤・通学について、日数は「ほぼ毎日」が4割以上と最も多く、行き先は「町外」が6割以上と大半を占めた。町外の主な行き先は、田原本町や奈良市が多かった。交通手段は「自動車・オートバイ」が約5割と最多だった。
- ・ 通院について、日数は「年に数日」が3割で最も多く、行き先は「町外」が8割で大多数を占めた。町外の主な行き先は、田原本町、天理市が多かった。交通手段は「自動車・オートバイ」が6割以上だった。
- ・ 買い物について、日数は「週2~4日」が4割以上と最も多く、行き先は「町外」が8割以上であった。町外の買い物先として、田原本町、天理市が多かった。交通手段は「自動車・オートバイ」が7割以上と最も多かった。

⇒行き先は「町外」が最多（通勤通学 66%、通院 80%、買い物 85%）で、日常生活の多くを町外に依存している。

⇒交通手段は、自動車・オートバイ依存の傾向がみられる（通勤 49%、通院 64%、買い物 73%）。

### (3) 公共交通の利用について

- ・ 鉄道利用頻度は「年に数回以下（0回も含む）」が5割以上と最も多く、鉄道利用は少ない傾向となった。週1日以上利用している層は2割以下だった。
- ・ 最も利用する駅は「石見駅」が約5割で最も多かった。最寄り駅までの交通手段は「徒歩」が半数を占めた。

### (4) 居住について

- ・ 定住意向は、「住み続けたい」が5割以上と過半数を占めた。
  - ・ 住みやすさの要因は、「地域への愛着」と「自然環境の良さ」がどちらも3割、「交通利便性（都市部へのアクセスがよい）」が2割で上位を占めた。
- ⇒過半数が三宅町で住み続けたい意思を示している。住みやすさの理由として、身近な環境や生活のしやすさ、交通利便性が評価されている。

### (5) 都市整備の方向性等について

- ・ 人口減少等による影響は、「医療費などの負担増」「地域の担い手不足」「空き家・空き地の増加」について懸念されている。
- ・ 人口減少社会の中においても持続可能なコンパクトなまちづくりに肯定的な意見が半数以上だった（「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計が5割以上）。

### (6) 防災について

- ・ 重点的に進めるべき防災の取組は、「避難所・輸送路等の整備」が最も多く、次いで「治水施設の整備」「排水路の整備」だった。
- ・ 認知している防災情報は、「ハザードマップ」「避難場所」が6割以上と高かった。